



20th Asian Games  
**Aichi-Nagoya 2026**

## 第2回 検討会 説明資料

2023年9月5日

## 1 第1回検討会の意見反映等

## 2 本日まで意見いただきたい事項

「アクセシビリティ・ガイドラインの素案について」

- ① 観客席
- ② トイレ
- ③ 宿泊施設
- ④ 刊行物とコミュニケーション
- ⑤ アクセシビリティ研修
- ⑥ その他

# I 第I回検討会の意見反映等

## 委員の皆様からいただいた意見を素案に反映した

### ○目次及び前文（第I回検討会で検討済）

委員意見等を踏まえて一部修正した。

### ○技術仕様

委員意見、東京2020大会や大阪・関西万博のガイドライン、愛知県や名古屋市の条例・指針等の基準を踏まえて、アジア競技大会・アジアパラ競技大会にふさわしい目標基準を検討した。

### ○アクセシビリティ研修

委員意見、東京2020大会のガイドライン等を踏まえて、大会に向けて実施するアクセシビリティ研修の方針（考え方）を整理した。

※「参考資料I 意見整理表及び対応案」を参照

# I 第I回検討会の意見反映等

## ○整備方針の考え方（※第I回検討会から一部修正）

- ・ このガイドラインに法的拘束力はない。
- ・ 対象施設の所有者・管理者等に対し、ガイドラインに即した施設建設・改修工事を実施するよう依頼。レガシーとなる恒常的な施設としての環境整備を働きかける。
- ・ 既存施設を考慮し、恒常的な環境整備が困難な場合、仮設による整備、ソフト的対応により、ガイドラインの趣旨を踏まえたサービス水準を確保する。
- ・ また、障害当事者等との意見交換や調査等を実施した各種整備については、意見交換等の結果をできる限り反映した工事を実施するのが望ましい。

# I 第I回検討会の意見反映等

## ○数値基準の考え方（※第I回検討会から一部修正）

|    | 水準の考え方   | 適用の方針  |
|----|--|--|
| 標準 | 東京2020大会や大阪・関西万博のガイドラインにおける『標準基準』、『愛知県条例』、『名古屋市指針』のうち最も高い水準を基本に設定。         | <u>既設の会場</u> 及びアクセシブルルート <sup>1</sup> の大会時の適用範囲において、現場条件や大会後の利用ニーズ等を勘案して、 <u>可能な限り実現を目指す</u> 。 |
| 推奨 | 東京2020大会や大阪・関西万博のガイドラインにおける『推奨基準』、愛知県整備指針や名古屋市指針による『望ましい基準』の水準を総合的に勘案して設定。 | 開催都市が保有する <u>新設の会場</u> の大会時の適用範囲において、現場条件や大会参加者・関係者のニーズ等を勘案して、 <u>可能な限り実現を目指す</u> 。            |

# I 第I回検討会の意見反映等

## 主要な数値基準

※「参考資料2 類似ガイドラインの比較表  
主要な数値基準の比較」を参照

### ○敷地内通路・廊下等の幅員

|    | 素案               | Tokyoガイド         | 大阪UDガイド          | 国基準       | 県条例/指針    | 市指針       |
|----|------------------|------------------|------------------|-----------|-----------|-----------|
| 標準 | <u>1,800mm以上</u> | <u>1,800mm以上</u> | <u>1,800mm以上</u> | 1,200mm以上 | 1,400mm以上 | 1,400mm以上 |
| 推奨 | <u>2,000mm以上</u> | <u>2,000mm以上</u> | <u>2,000mm以上</u> | 1,800mm以上 | 1,800mm以上 | 1,800mm以上 |

### ○出入口の幅員

|    | 素案             | Tokyoガイド       | 大阪UDガイド        | 国基準     | 県条例/指針  | 市指針            |
|----|----------------|----------------|----------------|---------|---------|----------------|
| 標準 | <u>900mm以上</u> | 850mm以上        | 850mm以上        | 800mm以上 | 800mm以上 | <u>900mm以上</u> |
| 推奨 | <u>950mm以上</u> | <u>950mm以上</u> | <u>950mm以上</u> | 900mm以上 | 900mm以上 |                |

注：「標準」は既設の会場に、「推奨」は開催都市が保有する新設会場に適用。  
ただし、恒常的な環境整備が困難な場合、仮設による整備、ソフト的対応により、ガイドラインの趣旨を踏まえたサービス水準を確保。

# I 第I回検討会の意見反映等

## ○傾斜路(屋外)の勾配

|    | 素案   | Tokyoガイド  | 大阪UDガイド   | 国基準                        | 県条例/指針  | 市指針   |
|----|--|---|---|----------------------------|---|---|
| 標準 | <u>1/8以下(高さ75mm以下)</u><br><u>1/10以下(高さ76-99mm)</u><br><u>1/15以下(高さ100-150mm)</u><br><u>1/20以下(高さ151mm以上)</u> | <u>1/8以下(高さ75mm以下)</u><br><u>1/10以下(高さ76-150mm)</u><br><u>1/20以下(高さ151mm以上)</u> | <u>1/8以下(高さ75mm以下)</u><br><u>1/10以下(高さ76-150mm)</u><br><u>1/20以下(高さ151mm以上)</u> | 1/12以下(高さ160mm以下の場合は1/8以下) | <u>1/8以下(高さ160mm以下)</u><br><u>1/15以下(高さ161mm以上)</u> | <u>1/8以下(高さ100mm未満)</u><br><u>1/15以下(高さ100mm以上)</u> |
| 推奨 | <u>1/20以下</u>  | 1/12以下(高さ150mm以下)   | <u>1/20以下</u>   | 1/12以下                     | <u>1/20以下</u>                                       | <u>1/20以下</u>                                       |

## ○エレベーターのかご

|    | 素案                                    | Tokyoガイド                              | 大阪UDガイド                               | 国基準                     | 県条例/指針                  | 市指針                     |
|----|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 標準 | <u>幅 1,700mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | <u>幅 1,700mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | <u>幅 1,700mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | 幅 1,400mm<br>奥行 1,350mm | 幅 1,400mm<br>奥行 1,350mm | 幅 1,400mm<br>奥行 1,350mm |
| 推奨 | <u>幅 2,100mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | <u>幅 2,100mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | <u>幅 2,100mm</u><br><u>奥行 1,500mm</u> | 幅 1,600mm<br>奥行 1,350mm | 幅 1,600mm<br>奥行 1,500mm |                         |

# I 第I回検討会の意見反映等

## 骨子(案)に追加した項目は、次のとおり

### ○カームダウン/クールダウンスペース

人混み、音や光等、環境の状況によって不安や恐怖等を感じ、パニックを起こしやすい人たちが、安心して楽しむための施設として、以下の機能を有する「カームダウン/クールダウンスペース」を設ける。

- ・遮光性、遮音性を確保し、壁は柔らかい素材とする。
- ・照明は照度調整、配光機能を備える。
- ・防犯(施錠、緊急連絡ブザー等)に十分に備える。

### ○ベビーケアスペース

乳幼児のケアのため、次の点に配慮した「ベビーケアスペース」を設ける。

- ・母乳及び哺乳びんによる授乳に対応した、授乳のためのスペースを設ける。
- ・授乳のためのスペースは区切られた空間とする。
- ・構成・設備配置等は、哺乳びんによる授乳時にも性別に関わらず利用できるよう、配慮する。

### ○センサリールーム

乳幼児連れの利用者、知的障害者、発達障害者、精神障害者等の多様な利用者に配慮し、気がねなく観覧できる「区画された観覧室」を設けることが望ましい。



## 2 本日まで意見いただきたい事項

### 「アクセシビリティ・ガイドラインの素案について」

- ① 観客席
- ② トイレ
- ③ 宿泊施設
- ④ 刊行物とコミュニケーション
- ⑤ アクセシビリティ研修
- ⑥ その他

# アクセシビリティ・ガイドラインの素案について

## ①観客席

Tokyoガイド…IPCガイド(2013)の基準をもとに整理



IPCガイドの改定(2020)内容を考慮

本ガイドライン素案…改定されたIPCガイドの内容を考慮し、基準を比較し整理。

|        | 素案   | Tokyoガイド                                     | IPCガイド<br>(2020)                             | 大阪UDガイド                           | 国基準                                 | 県条例/<br>指針           | 市指針                  |
|--------|--|--|--|-----------------------------------|-------------------------------------|----------------------|----------------------|
| 車いす席の数 | 1%(車いす競技は1.2%)<br>(1万席未満の場合)                 | 0.75%(オリンピック)<br>1.0~1.2%(パラリンピック)           | 1%(車いす競技は1.2%)<br>(1万席未満の場合)                 | 1%+2席(200席以上)<br>2席以上又は2%(200席未満) | 0.5~1%以上                            | 10席以上又は0.5%(推奨1%)    | 0.5%以上(推奨1%以上)       |
| スペース   | 車いす<br>900mm×1,500mm<br>同伴者<br>500mm×1,500mm | 車いす<br>900mm×1,300mm<br>同伴者<br>500mm×1,300mm | 車いす<br>800mm×1,300mm<br>同伴者<br>500mm×1,300mm | 車いす<br>900mm×1,400mm              | 車いす<br>900mm×1,200mm<br>(推奨1,400mm) | 車いす(推奨)900mm×1,500mm | 車いす<br>900mm×1,500mm |

# アクセシビリティ・ガイドラインの素案について

## ①観客席

※災害時において、座席から出入口又は避難広場等まで安全かつ円滑に避難できるよう、避難経路等の配慮が必要。

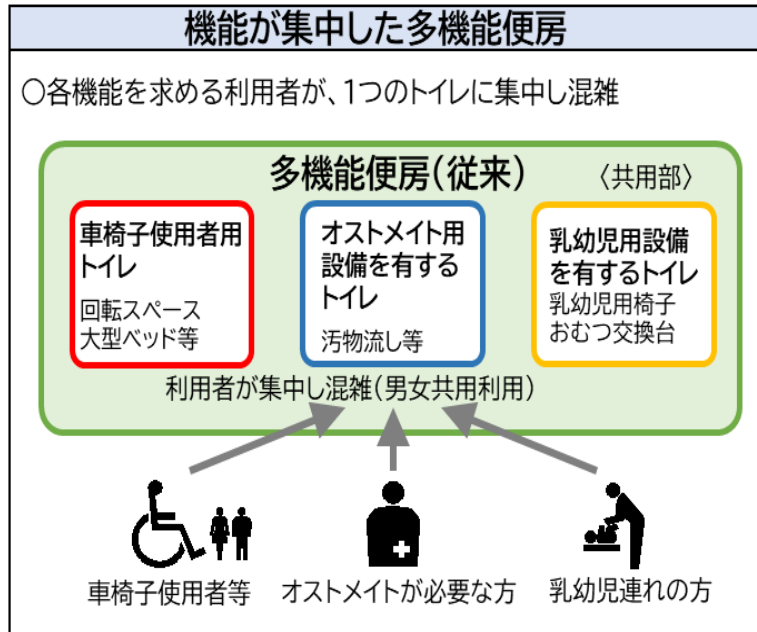
|        | 素案   | Tokyoガイド  | IPCガイド (2020)                | 大阪UDガイド  | 国基準                             | 県条例/指針                        | 市指針                           |
|--------|--|---|------------------------------|--|---------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 配置     | <p>・アクセシブルな通路からアクセスできる場所</p> <p>(推奨) 水平方向及び垂直方向に分散させて設置</p>      | <p>・アクセシブルな通路からアクセスできる場所</p> <p>(推奨) 水平方向及び垂直方向に分散させて設置</p> | <p>・アクセシブルな通路からアクセスできる場所</p> | <p>・2箇所以上の異なる位置 (異なる階、異なる水平位置) に分散配置</p>                         | <p>舞台やスクリーンとの距離や見やすさに配慮した配置</p> | <p>出入り口から容易に到達でき、観覧しやすい位置</p> | <p>出入り口から容易に到達でき、観覧しやすい位置</p> |
| サイトライン | <p>柵、手すりの高さ800mm以下</p> <p>(推奨) 眼高700~800mm(小学校低学年の車椅子使用児を想定)</p> | <p>手すり等の高さ800mm以下</p>                                       | <p>C値90mm</p>                | <p>柵、手すりの高さ800mm以下</p> <p>(推奨) 眼高700~800mm(小学校低学年の車椅子使用児を想定)</p> | <p>手すりの高さは、サイトラインに十分配慮</p>      |                               |                               |

$$C \text{ 値} = \{ D(N+R) / (D+T) \} - R$$
 D = ピッチまでの水平距離  
 N = 座席1段ごとの高さ  
 R = 座席の観客の目の高さ と ピッチレベルとの間の垂直線上の高さ  
 T = 座席の奥行き

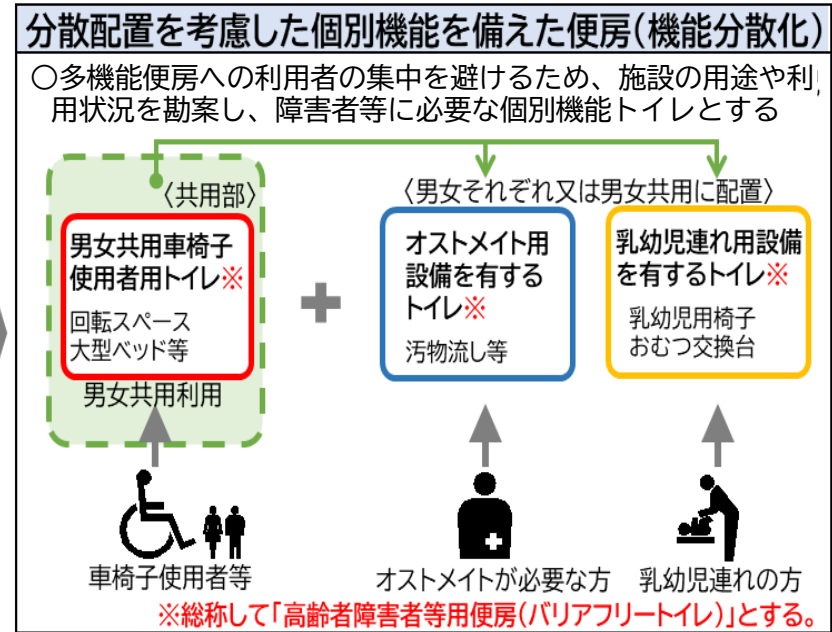
## ② トイレ

【前提】便房のあり方の変化（多機能⇒機能分散化）

従来



近年(2021年以降)



国土交通省: 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準

# アクセシビリティ・ガイドラインの素案について

## ②トイレ(大会会場)

・Tokyoガイド…「多機能便房」を前提として、トイレの設置数を整理



国基準等の変更を考慮

・本ガイドライン素案…「個別機能を男女別のトイレに分散配置」した上、「男女共用の車いす使用者用トイレ」を1以上設置するという整理

|        |    | 素案                    | Tokyoガイド           | IPCガイド<br>(2020)  | 大阪UDガイド     | 国基準                             | 県条例/指針                          | 市指針   |
|--------|----|-----------------------|--------------------|-------------------|-------------|---------------------------------|---------------------------------|---|
| 車いす用の数 | 標準 | 1以上                   | 1/15の割合<br>※多機能トイレ |                   | 1以上         | 1以上                             | 1以上                             | 1以上   |
|        | 推奨 | 車いす座席数<br>に対し1/15     |                    | 車いす座席数<br>に対し1/15 |             | 階ごとに<br>200以下:2%以上<br>200超:1%+2 | 階ごとに<br>200以下:2%以上<br>200超:1%+2 | 車いす座席数に<br>に対し1/15<br>階ごとに<br>200以下:2%以上<br>200超:1%+2 |
| 個別機能   | 標準 | オストメイト対応・乳幼児用設備有:各1以上 |                    |                   | オストメイト対応1以上 | オストメイト対応・乳幼児用設備有:各1以上           |                                 | オストメイト対応・乳幼児用設備有:各1以上                                 |

## ③ 宿泊施設

- ・Tokyoガイド…国際基準（IPCガイドライン）をベースに整理。



海外では浴槽付客室は必ずしも一般的ではない等、日本の現状に合っていない部分がある

- ・本ガイドライン素案…国基準等をもとに、Tokyoガイドで不足している部分を拡充。  
国内の宿泊施設に合うように内容を整理。

## ○ アクセシブルルーム

- ・配置数 ※Tokyoガイドでは規定されていないため、国基準に準拠

|    | 客室総数    | 車椅子利用者用客室の数                |
|----|---------|----------------------------|
| 標準 | 50以上    | 客室総数の1/100を乗じて得た数以上        |
| 推奨 | 51～200  | 客室総数に1/50を乗じて得た数以上         |
|    | 200を超える | 客室総数に1/100を乗じて得た数に2を加えた数以上 |
|    | 50未満    | 1以上                        |

## ③ 宿泊施設

### ○ アクセシブルルーム

- ・ **便所、便房** ※Tokyoガイドでは規定されていないため、国基準に準拠
  - ・ 客室内の便所には、車椅子使用者が円滑に利用できる便房を設ける。
  - ・ 便所の出入口の有効幅員は、800mm以上とする。
  - ・ 車椅子使用者が180°転回（方向転換）できるよう、1,400mm×1,400mm以上のスペースを設ける。
  - ・ 便房には、腰掛便座、手すり等を適切に配置する。
- ・ **浴室又はシャワー室** ※国内の宿泊施設の状況に鑑み、国基準に準拠した形で記述を追加
  - ・ 客室内には、車いす使用者が円滑に利用できる浴室又はシャワー室を設ける。
  - ・ 床には段差を設けない。床は濡れても滑りにくく、転倒時や床に座ったままで移動する場合にも体を傷つけにくい材料で仕上げる。
  - ・ 浴槽の深さは500mm程度、エプロン高さは450mm（車椅子の座面の高さ程度）程度とする。
  - ・ 車椅子から移乗しやすいよう、浴槽の脇に移乗台を設ける。

## ④ 刊行物とコミュニケーション

### ○ 刊行物

#### ・ 文字色・文字の大きさ

- ・ 文字色は、最も読みやすい「白と黒」の組み合わせを用いる。
- ・ 色彩を用いる場合は、表題や見出し、強調箇所だけに限定する。
- ・ 文字の大きさは、12～18フォントにする。
- ・ フォントは、ユニバーサルデザイン仕様のゴシック体（角ゴシックなど）を用いる。欧文フォントの場合は、標準的なサンセリフ体（ArialやVerdanaなど）を用いる。

#### ・ 表現

- ・ 難しい言葉は、簡単な言葉に置き換える。
- ・ 専門用語や外来語を使わなければならない場合には、注釈や日本語訳を付ける。
- ・ 難しい人名や地名、固有名詞の漢字を使う場合には、振り仮名（ルビ）を付ける。
- ・ 地図やグラフなど塗りつぶす面積が広い場合には、斜線やドットなどのハッチング（模様）を加えると、色が見分けられない場合でも、情報が伝わりやすくなる。

#### ・ 電子文書

- ・ PDF形式は読み上げソフトで読み上げられない。別途、テキストファイルを用意する。



## ④ 刊行物とコミュニケーション

### ○ 表示サイン

- ・ 文字の大きさ (東京ガイド、市指針、国旅客ガイドと同数値で設定)

| 視距離  | 和文文字高   | 英文文字高  |
|------|---------|--------|
| 30m  | 120mm以上 | 90mm以上 |
| 20m  | 80mm以上  | 60mm以上 |
| 10m  | 40mm以上  | 30mm以上 |
| 4～5m | 20mm以上  | 15mm以上 |
| 1～2m | 9mm以上   | 7mm以上  |

※遠くから視認する吊下式の誘導サインや位置サインは20m以上、近くから視認する自立式や壁付型等の案内サインは4～5m以下、案内サインの見出し等は10m程度の視距離を設定することが一般的

### ・ 表示サインの要件

- ・案内板等は高齢者、障害者等に配慮した大きい太い文字を用い、簡潔な表現、見分けやすい色の組み合わせを用いる。
- ・会場では、大型モニター等を用いた視覚(文字)情報を提供することが望ましい。
- ・表示とあわせ、音声案内、音響案内を設置する。各種案内板による情報についても、必要に応じ、音声案内を組み合わせる。

## ⑤ アクセシビリティ研修

- ・Tokyoガイド…IPCガイドライン（国際的な高い人権意識がベース）に準拠。



愛知・名古屋においても、障害に対する理解の促進をより一層図っていく。

- ・本ガイドライン素案…以下の障害に関する考え方（心のバリアフリー）を明記。  
トレーニングを研修とする等、わかりやすく日本語で表記。

### ・心のバリアフリーを体現するためのポイント（ユニバーサルデザイン 2020 行動計画）

- ・障害のある人への社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという「障害の社会モデル」を理解すること
- ・障害のある人（及びその家族）への差別（不当な差別的取扱い及び合理的配慮の不提供）を行わないよう徹底すること
- ・自分とは異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションを取る力を養い、全ての人々が抱える困難や痛みを想像し共感する力を培うこと

## ⑤ アクセシビリティ研修

全ての大会スタッフとボランティアに対して、大会の意味の理解を深め、障害に関する課題を明らかにして偏見を取り除くための研修(3段階)を実施する。

### ・障害者等に対する接遇・アウェアネス(気づき)研修

全ての大会関係者を対象に、その持ち場に関係なく、障害者等に対する接遇やアウェアネス(気づき)等に関する研修を実施

### ・役割別研修

障害のある方と直接、頻繁に接する機会のあるスタッフ全員を対象に、障害当事者を交えた実践的なアクセシビリティ研修を実施

### ・会場別研修

障害のある方と直接接する機会の有無にかかわらず、会場を担当するスタッフ全員を対象に、会場固有の施設・設備やサービスに関するアクセシビリティ研修を実施

## ⑥その他

その他、ご意見があればお願いします。